

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.347.2023



2023年1月25日発行
公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 村井伸夫
編集人 / 松島晃子

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

1・2



ピンクシャツデーとは...

2007年カナダでピンクのシャツを着て登校した少年がいじめられました。それを見ていた2人の学生が50枚のピンクのシャツを友人・知人に配りました。翌日学校では、呼びかけに賛同した多くの学生がピンクのシャツを着て登校しました。学校中がピンク色に染まり、いじめは自然となくなったのです。そのエピソードがSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の第4水曜日だったことから、2月の第4水曜日には私たちがいじめについて考え、いじめられている人々と連帯する思いを表す1日としています。

Pink Shirt Day 2023

仙台YMCAで取り組み始めて今年で8年目になります。

12月にピンクシャツデータスクを立ち上げ、活動を始めています。今年もYMCAに関わる人以外にも広く知っていただくために仙台市、山元町、名取市、富谷市教育委員会から名義後援をいただき、全ての小中学校にちらしとポスターを配布させていただくこととしました。年々、活動に参加して下さる学校が増え、昨年度は生徒さんたちがピンクのTシャツを着たり、先生がピンクのネクタイをしったりという報告を受け嬉しく思っています。また、YMCAの各施設ではピンクシャツデーの出来事を劇にしたものを園児に見せたり、「言われたら嬉しい言葉」を書き出して掲示したり、ピンクシャツウィークを設けたりと様々な活動を行いました。

仙台YMCAでは「いじめをしない」というネガティブな伝え方ではなく、「一人ひとりの違いを認める」というポジティブな伝え方をしています。

幼稚園の卒園式で毎年歌う讃美歌「このままの姿で」の歌詞に「わしはわしのようにすずめはすずめのように」「バラはバラのようにすみれはすみれのように」「わたしもこのままの姿で生きていきます」というものがあります。まさにこの歌詞のようにみんなが「自分は自分のままで良い」と思えたら、そして相手に対しても「あなたはあなたのままで良い」と思えたら、いじめはなくなると思います。

また、YMCAで大切にしているキャラクターディベロップメントの4つの価値も同時に伝えたいと思っています。

「CARING やさしくする」「RESPONSIBILITY できることはじぶんです」「RESPECT ひとをたいせつにおもう」「HONESTY しょうじきになる」という4つの価値を身に付ければいじめはなくなるはずです。ピンクシャツデーをとおして、一人ひとりを認め合える世界を目指し今年も活動をしていきたいと思っています。

2月22日は各施設や学校など様々な場所がピンクに染まることを期待しています。

(ピンクシャツデー実行委員会委 高橋祐子)



Column

仙台青葉城ワイズメンズクラブ

『YMCAとワイズメンズクラブ』

仙台青葉城ワイズメンズクラブ会長：涌澤博

ワイズメンズクラブとはYMCAをパートナーとし、YMCAをサポートするボランティア団体で、仙台近郊には4つのワイズメンズクラブがあります。ワイズメンズクラブの歴史は古く1922年にアメリカのYMCAで誕生し今年100周年を迎えました。今では64か国に約1,400クラブ、26,000人の会員が在籍しております。日本国内では、約140クラブ、2,200人の会員が活動しています。仙台YMCAには1948年に仙台ワイズメンズクラブが誕生し75年目になります。その後1980年仙台青葉城ワイズメンズクラブ、2011年仙台広瀬川ワイズメンズクラブ、2016年石巻広域ワイズメンズクラブが誕生して、2022年現在で63名が会員として在籍しております。

私たちの行っているボランティアは主にチャリティーラン、チャリティーゴルフ、バザー、クリスマス、協力募金などYMCA主催の各種事業の支援をはじめ、YMCAの留学生やYMCAIに集うユース(若者)や学生ボランティアなどの青少年育成支援などを行っています。また自然災害支援(地震、台風等)などもYMCAと協働しながら活動を行っています。またそれぞれのクラブで独自のボランティア活動も行われており、地域社会奉仕から国際支援活動などクラブごとに特色のある活動が行われています。ワイズメンズクラブは国際的な組織ですので、国内はもちろん外国のメンバーと定期的に大会などで懇親を深めたり、クラブ同士姉妹関係を締結し交流事業、交換留学などを行ったりと、会員同士の交流事業も楽しみの一つです。また会員婦人(女性)によるメネット会があるのもワイズメンズクラブの特色です。

ワイズメンズクラブでは月に2回定例会を開催します。第一例会ではゲストを招き、卓話やイベントを開催します。

会員以外の方々との情報交換など有意義な例会を開催できるように日々考えています。定期的に他クラブとの合同例会や場所を変えて移動例会なども実施します。第二例会では事業活動の進め方や例会企画、予定などを話し合います。ここ数年のコロナ禍により、いろいろな活動が制限されて来ました。それは私達だけでなく多くの方が我慢を強いられたのと思います。そんな中ワイズメンズクラブでは比較的早い時期から、リモート会議、リモート例会などを実施し交流やコミュニケーションを絶やさないように活動してきました。最近はこのまでの規制が徐々に緩和され、海外訪問や海外メンバーの来日情報なども入って来るようになりました。

今年はまた以前のようにYMCAと共に奉仕活動、交流事業が再開される事を願います。

ワイズメンズクラブにご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。
仙台YMCA ワイズメンズクラブ担当主事 高橋祐子
TEL : 022-222-7533



ニシヤマセブンの取り組み

目 的

- ①小学校高学年からのボランティアへの取り組みを促す活動を展開し、児童の社会性、協調性、生きる力を育む。
- ②中学生、高校生ボランティアへ視野を広げ長期的なボランティア育成を目標とする。

①キャラクターディベロップメントの日

地域のためになることについて企画・立案・実施・報告を職員と協働で行います。子どもたち自身が考え、地域をよりよくするためにどんな行動が必要でどのように実施するのかを職員と協議し、西山児童館で大切にしているキャラクターディベロップメント（思いやり、責任感、正直になる、尊敬心）をテーマにおいた活動を実施しています。児童館行事や運営団体YMCAの特別活動のサポートも行います。

②地球探検隊ジュニアボランティア活動

児童館で行っている自然体験活動にジュニアボランティアとして参加しています。西山児童館では児童クラブに登録している小学1年生～5年生を参加対象とした「地球探検隊」を月に一回実施しています。地球探検隊ジュニアボランティア活動では、山登りや川遊び、野外クッキング等活動を楽しみながら、児童館のリーダーのお手伝いや下級生のお世話をしてもらっています。

今年度仙台市社会福祉協議会宮城野区事務所からの参加協力依頼をいただくことがあったので、以下に紹介させていただきます。

11月12日西山コミュニティセンターにて「防災シュミレーションゲーム体験」に参加させていただきました。わしん倶楽部の田中先生を講師に、～災害時の判断。あなたならどうする？～をテーマにクロスロードというゲームが進んでいきます。参加したのは、西山地域の町内会、防災協議会のみなさん、宮城野区障がい者福祉センター利用者の皆さん、燕沢地域包括支援センターに関わる高齢者の皆様、そしてニシヤマセブンです。いつもならリーダーのサブとして活動する彼らも、今回は地域の小学生としてそれぞれのグループにちりばめられての参加、職員の見守りする形でした。授業参観の保護者のような気持ちで始まった活動でしたが、私たちの心配をよそにメンバーはそれぞれのグループで、積極的に発言している姿が見られ、大変頼もしく思いました。自分が住む地域のことを、地域の皆さんと考え、話し合う機会を今後も作り、地域の担い手づくりの一助となれる活動を今後も年間活動の中に取り入れていきたいと思えます。

(西山児童館 館長/ 伊藤雅宣)



仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に広げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を広げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

主の御名を讃美いたします。

日本国内で新型コロナウイルス感染者が確認されて3年が経過しました。この間、医療関係者をはじめソーシャルワーカーの方々のご尽力とご献身に対し、感謝の思いでいっぱいです。先日も、「17時間連続勤務の救急隊員が、救急車を運転中、過度の疲れから眠ってしまい衝突転倒で怪我を負った」と報道がありました。患者を病院に搬送後、消防署に戻る途中、運転手のみならず助手席に乗っていた救急隊員と後部座席にいた救急隊員3人全員が眠ってしまっていたそうです。

コロナ禍の3年が、子どもたちにも変化を生んだ気がします。「マスクしなきゃダメなんだよ」「食べてるときはしゃべっちゃダメなんだよ」「もっと離れなきゃダメなんだよ」、そんな会話がよく聞かれます。うがい、手洗い、換気が大事なことはわかっていますが、マスクで顔の半分を覆って、友だちとの距離を保って、声を出せない生活の中で、自分の行動にブレーキ(制限)をかける習慣が日常化してきたのではないかと思います。子どもらしくあってほしいという思いが強くなりました。

ロシアのウクライナ進攻が始まって1年が経過しました。ウクライナとロシア双方で多くの犠牲者を生みました。近代化された時代であって、極寒の地で暖房や灯りが無い生活を強いられるとは思いませんでした。どれほどつらいことでしょう。なぜ戦争は止まないのでしょうか、なぜ力による支配が止まないのでしょうか。こんなことで、喜びや笑顔が生まれないことは知っているはずなのに。

新しい1年が始まりました。弱く小さな仙台YMCAであること、自分であることもわかっていますが、国内のYMCA、世界のYMCA、YMCAと結ばれている方々と共に、世界のどこであって平和で自由に安心な生活ができること、子どもが子どもらしくいられること、一人ひとりの違いを認め合う本当に豊かな社会の実現という願いと行動を実現していきたいと祈り誓う年の始めでした。

仙台YMCAクリスマス実行委員会より

報告： イシドロ アビゲイル

12月9日(金)18:00~19:30にトークネットホール仙台展示室(仙台市民会館)にて第51回仙台YMCAクリスマスが行われました。今年も新型コロナウイルス感染者が増加しているため、人数制限と時間を短縮して実施いたしました。

今年は世界平和をテーマとして、クリスマスイベントを開催しました。第1部の礼拝ではOM日本の阿見フランス宣教師から「あなたにピース」という平和のメッセージについてお話をいただきました。第2部の交流会はグループに分かれて、ピクチャー伝言ゲームとビンゴゲームをしました。そして、専門学校国際おもてなし科の学生はネパールの踊りを皆様に披露しました。最後に、仙台YMCAクリスマス実行委員会委員長の多田修さんが感謝の挨拶をし、閉会になりました。

世界に様々なことが起こっているため、「ピース・イン・クリスマス」という展示会があり、子どもからお年寄りの方までの平和のメッセージを見ることができました。そして、食事の提供はしませんでした。専門学校の学生と先生が作ったサンタパン・チョコマンパンをプレゼントとして配布いたしました。

限られた時間で少人数の開催でしたが、皆様と一緒にクリスマスを楽しく祝うことができ、思い出に残る仙台YMCAクリスマスになりました。

